

9月1日は防災の日

災害に備えて、今、私たちにできること

大地震や豪雨などの自然現象は、人の力で食い止められなくても、災害による被害は、自分たちの日ごろの努力によって減らすことができます。尊い命を救い、被害を少しでも小さくするために大きな力となるのは、自分の身は自分で守り、家族や地域で助け合うこと。そのために、今、できること、しなければならないことは何か、考えてみましょう。大切なのは普段からの心掛けです。

始めよう！自分や家庭でできること

建物を強くするための基礎知識を身に付けよう！

建物の強さを左右するのは、柱の間隔や壁、柱を斜めに支えるすじかいの量などです。開口部が多い建物は揺れやすく、結果として地震に弱い建物といえます。建物の強さについて理解するための教材や実験が紹介されているホームページ(<http://www.sharaku.nuac.nagoya-u.ac.jp/bururu/>)などがあります。自分の目で確かめてみましょう。まず知ることが対策の第一歩です。



部屋の総点検をしよう！

大地震では、テレビが飛び、タンスが自分の上に倒れ掛かってきます。また、窓ガラスや食器は鋭い破片を床一面に広げ、行く手を阻みます。家具の固定や移動、出口の複数確保など、「生き残ってから」のことよりも「生き残るため」の努力を先に行いましょう。身近な空間の安全点検と必要な対策が最優先です。



防災マップをチェックしよう！

防災マップは、大地震、津波、洪水などの自然災害が発生した場合の被害の様子や、避難・救援活動に必要な情報が掲載されている地図です。自宅はもちろん、学校や職場の近く、通勤通学途中にある避難所を家族みんなで確認しておきましょう。防災マップは伊予市のホームページ(<http://www.city.iyo.ehime.jp>)からダウンロードできます。



情報発信の方法を知ろう！

災害は、家族がそろっているときに発生するとは限りません。万一、被災した場合は、家族や知人に向けて、真っ先に自分の安否情報を発信することが大切です。災害発生時は通話が集中するため、電話が繋がりにくい状況になります。安否確認には、災害用伝言ダイヤル171や、ケータイ災害用伝言板サービスなどを利用しましょう。また安否を連絡する相手や方法を家族で決めておき、使い方を覚えておきましょう。



日ごろから準備しておこう！

- 外出先でいつも身に付けておきたいもの
- ・連絡や避難、帰宅のための現金、身元や連絡先を記したカード
 - ・持病がある人は診察券や病名・処方薬を書いたメモ
 - ・状況把握のためのポケットラジオやメモ帳、筆記具
 - ・LEDランプ付キーホルダーや笛
 - ・ペットボトルの水やチョコレート

重要なことは、無意識に持って歩けるような気軽さです。小ささ・軽さだけでなく、財布やバッグ、衣類のポケットに入る、キーホルダーに付けられることなどがポイントです。

- 家庭やオフィスに常備しておきたいもの
- ・速やかな避難を可能にするもの(履きやすく脱げにくい靴、雨具、皮手袋、ヘッドライトなど)
 - ・「あれば便利なもの」より「なければ困るもの」(常備薬、入れ歯、補聴器、眼鏡、通帳や証券類の控え番号を記したメモなど)
 - ・日常生活で無意識に使用するもの(ティッシュ、トイレトペーパー、ラップ、ゴミ袋、水、新聞紙など)



■問い合わせ 防災安全課(☎982-1111、内線564)